



夏の彩展 2012 展示風景

掘り下げた製品作りに挑戦

(有) 貞荊椅子製作所

代表取締役 貞荊 伸二さん

取材日の七月十六日(月)は、大雨の影響で筑後地方は慌ただしかった。(有) 貞荊椅子製作所の社長、貞荊伸二さんも同様だった。なんと会社の城島工場が浸水し、機械、電気設備等に被害が出ていたからだ。そんな忙しい中、律儀にも約束を守り快く取材の時間を作って頂いた事に恐縮した。

作所の歴史の始まりとの事だ。さて本題に話を戻そう。(有) 貞荊椅子製作所は、椅子・テーブル製造のオールラウンダーである。この分野のあらゆる種類の製品を製造販売している。

お得意先は、家具屋、ホームセンター、介護施設、病院関係、レストラン、寺院、葬儀場等々、近隣各県を中心に全国レベルで販売している。

専門メーカーとして、椅子・テーブルへの拘りは強い。デザイン性・耐久性はもちろんだが、座りごこち、扱いやすさを追求している。「例えば、



タイ工場



ユニークでカラフルな製品が目立つ

介護施設用の椅子の場合、使う本人だけでなく、介護する人も扱いやすいように心がけています。保育園などは園児がけがしないように、角の立たない製品に。又、ホテルやレストラン用の場合は、汚れ難い・手入れがしやすい商品である事もキーポイントの一つですね。」

製品の写真をいくらから見せてもらったが、とてもユニークでカラフルな製品が目立つ。生産は、国内工場とタイ工場のツイン体制で行っている。国内工場は、納期のスピードや特殊性、また少数の製品を求める顧客を主な対象としている。一方タイ工場は既製品や安さを求める顧客を中心としている。



ジョイフル 大分県田尻店



耐久性と座り心地の良さを追求したデザイン

さてタイ工場について、少しお話を聞いてみた。会社名はグローリープラン・タイランド (Glory Plan : THAILAND)。従業員は一二〇名程。タイ人の他、カンボジア人を二十〜三十人ほど雇用している。その理由は、タイの労働情勢は現在 ずいぶんタイトな状況との事だ。タイも経済発展に伴い、3K的な仕事を嫌う傾向が出てきており、そこでカンボジア人を雇用しているのだ。

通常、海外で工場を設立する場合、現地の労務管理や、人間性・生活習慣の違いが大きい為、現地のパートナーとの共同経営が多いそうだ。し

かし、グローリープランは一〇〇%貞莉椅子の経営である。その一番の理由は、パートナーの制限を受けることなく、日本の会社方針を一〇〇%反映するためだ。

現在、副社長の貞莉博統さん(実弟)が 現地の責任者として常駐し、他二名の日本人で、運営・管理・指導している。「二九九五年の設立当時は簡単な作業しか出来なかつたが、現在ではある程度は複雑な製品作りも出来る様になりました。」

(有) 貞莉椅子製作所の主材はラバーウッド。タイ原産のラバーウッドを使用している。ラバーウッドは計画的に植林



ケア施設向け家具

し、天然ゴムの樹液が取られた後の「ゴムの木」で、森林伐採に配慮したエコな材だ。伐採しても、植林後の成長が速いため環境に優しい。以前は反りや狂いが生じやすく、廃棄していた材木。しかし「近年、乾燥技術の改良により、家具材として使用できるようになっていきます。比較的硬く白い材質で滑らかな肌触りが特徴ですね。」

夢を聞いてみた。「これからも、椅子・テーブルに拘りより深く掘り下げた製品作りに挑戦し、永く存続出来る会社になりたいです。また、地元大川の木工産業に多くの若い人たちが携わる時代の到来を切望しています。」



テーブルセット